

第15回北九州市外郭団体評価会議 開催概要

- 1 開催日時:令和3年10月25日(月) 14 時 00 分~16 時 00 分
- 2 開催場所:Web開催
- 3 出席者:明石座長、今泉氏、加藤氏、新川氏、能美氏、福地氏及び外郭団体所管課
- 4 議題:「令和2年度ミッション遂行票(取組結果)について」
- 5 議事要旨

(1)北九州高速鉄道株式会社(団体の経営状況について)

<構成員コメント>

- ・減損処理により、今後減価償却費が軽減されるので、経営状況を適切に把握するためにも、減価償却前の損益を指標として、業績動向を注視していただきたい。
- ・減損処理を行っただけでは収支が改善するわけではないので、それだけで終わらずに設備のスリム化など、何らかの具体策を講じてほしい。

<団体等コメント>

- ・乗客の利用促進策やDXなどによる業務効率化などを図りながら、早期の欠損金の解消を目指していきたい。
- ・償却前利益を業績評価の指標とするなど、より経営状況が分かる形にしたい。
- ・設備更新を控えているため、実需に見合った設備のスリム化を取り入れていきたい。

(2)北九州市福祉事業団(団体の経営状況について)

<構成員コメント>

- ・業績が安定していた時の財務状況と現状を比較することで、より経営状況の変化が分かるようになるため、そういった視点で長期的な比較をしていただきたい。
- ・外部コンサルが指摘した総合療育センターが抱える弱点や問題点とその対策、具体的な計画と進捗を今後継続的に示していただきたい。

<団体等コメント>

- ・総合療育センターの運営を再検討するため、「経営会議」を設置した。定期的を開催し、具体の目標値を定めて取り組むなど、意識改革を含めた経営改善に励んでいるところである。
- ・保育士が不足している保育所部門においては、嘱託採用の一部を正規職員化することで、保育士の確保が可能となり増収が見込めるほか、他の分野においても、優秀な人材や新たな社会的ニーズに対応できる専門性のある人材の確保が可能となるように、正規職員数の弾力化を図ることで、将来にわたって安定した団体の経営を目指したい。

(3)北九州市住宅供給公社(成果指標「空き家の面的対策の地区数」について)

<構成員コメント>

- ・空き家対策の成果把握の方法として、住宅土地統計調査の結果というのは、現場の実態に沿った分析は出来ないと考える。実態把握の方法を工夫してほしい。
- ・空き家の利活用は、様々な課題が存在しているため、個々の事例の吸い上げを行い、優先順位付けながら対応してもらいたい。
- ・接道していないなど、再建築が不可能な土地の利活用についても、適宜対応を研究してほしい。

<団体等コメント>

- ・空き家の利活用や放置予防対策など個々の取組と併せて、総合的に空き家を増やさない取り組みを推進していきたい。

(4)皿倉登山鉄道(株)「来年度以降の新たな成果指標について」

<構成員コメント>

- ・業績の改善はおおよそ目途がついているため、今後は集客面で新しい目標立てて取り組んでもらいたい。

- ・例えば若者など、ターゲットを明確にしたうえで、SNS のアクセス数や「いいね」の数などを指標として測りながら、情報発信に努めてほしい。

<団体等コメント>

- ・集客目標のようなものを立てる必要性は感じている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながら、事業に関する成果指標を追加することについて検討したい
- ・SNS等へのアクセス件数等を成果指標にすることについては、構成員の意見を参考にしながら検討したい。

(5)(公財)北九州市環境整備協会「コロナ禍における検査部門の取組について」

<構成員コメント>

- ・子供向けの環境学習機会の創出は、昨今のSDGsの流れから見ても大事なことである。コロナ禍においてもWebでの実施や各種メディアを通じた活動によって積極的に取り組んで欲しい。
- ・Webでの実施であれば、市内だけにとどまらず広く北九州の環境未来都市としてのブランド力を発信することが出来る。

<団体等コメント>

- ・検査部門の取組方法について、コロナ禍以前の方法に戻すのか、Webでの事業実施などデジタルの手法と併用していくのか、どちらでも対応できるよう検討していきたい。